

むくのきだより 3月号



令和7年3月3日 港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

自信をつけて新しい世界へ

園長 中村 美奈子

「あかりをつけましょ ぼんぼりに」と、子供たちのかわいい声が聞こえてきます。子供たちが何日もかけて作った色とりどりのお雛様は「すまし顔」ではなく、にっこり笑っているようです。飾られた桃の花や菜の花が春を運んできています。

赤羽幼稚園では、年長ゆり組と年少さくら組との関わりを大切にした教育を進めてきました。遊戯室や園庭では、自然と一緒に遊べるような場を設定したり、ペアやグループで行事をしたり、2学級の園のよさを生かして取り組んでいます。

遊戯室にスクリーンや懐中電灯、紙やペン、色セロファンを用意しておく、年長ゆり組と年少さくら組の子供たちが一緒に、いろいろな遊びを始めます。懐中電灯で照らしてみたり、影が伸び縮みするのを楽しんだりしていました。とうきょうすくわくプログラム事業で、影絵鑑賞やサイエンスショーの中で「光と影」の面白さに触れ、自分たちの遊びの中で再現したり遊びを作り出したりしているのです。

先日の「お別れ遠足」の出発前に、「ゆり組さんは、さくら組さんに優しく教えてあげてください。」と話すと、「はい！」とはりきった声。年長ゆり組の子供は、年少さくら組の子供が内側になるように手をつないで東京タワーまで歩いていきました。横断歩道も、さっと手を挙げて渡っていました。東京タワーの展望台では、「幼稚園は見えるかな?」「富士山だ!」「どこ?」など、話していた子供たち。お弁当も一緒に食べ、食べ終わると、仲良くじゃんけんをして遊んでいる姿もありました。帰りに三田国際ビルの広場に寄りました。混合グループで、「なべなべそこぬけ」「クイズ」など先生からの問題に挑戦し、声を掛け合ったり一緒に喜んだりする姿がありました。

今、もうすぐ修了式を迎える年長ゆり組の子供たちが、年少さくら組の子供たちに「誕生会の司会」や「当番活動」を教えています。2月の誕生会は、言葉やお辞儀の仕方などを教えたあと、一緒に司会をしました。もるくん(モルモット)やりこくん(カメ)のお世話、園庭の掃除や水やりは、やり方を見せながら丁寧に優しく教えていました。年長ゆり組の子供たちは、教えることで自分ができるようになったことを自覚し、自信を深めた様子です。一方、年少さくら組の子供たちは、お姉さん・お兄さんだけがしていたことをやれることになり嬉しい様子です。こうして毎年、子供から子供へと引き継がれる経験が、それぞれを一段と成長させることにつながっていると感じます。子供たちが自信をもって進学・進級できるように、一日一日を大切に教職員一同過ごしてまいります。

今年度も保護者や地域の皆様には、本園の教育活動にご協力いただき、ありがとうございました。心より感謝を申し上げます。

